

「鹿児島県」ってどんな県

鹿児島市立田上小学校 宮内 隆靖

他地域とつながっている鹿児島県。地図を使うと、そのつながりがよく見えてくる。

ここでは、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下地図帳）を使って読み解くことのできる「鹿児島」について、学年ごとにいくつか取り上げてみた。

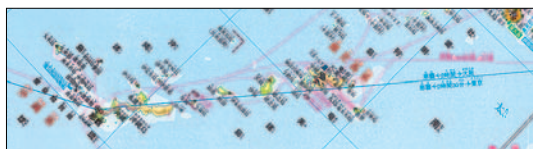
① 鹿児島県ってどんな県 （4年生での地図帳活用例）

《参考》地図帳p.21～22「①九州地方の地図」

鹿児島県は、離島の多い県であり、県の範囲は南北に長い。さらに、アジア諸国とも地理的に近い。地図を活用し、鹿児島県の位置や土地の様子を読み解いてみた。

1. 鹿児島県はどこにありますか。

地図帳p.21～22「①九州地方の地図」だけでは、大隅諸島や奄美諸島など把握できないことを知り、子どもたちにp.13～15「①日本の南西諸島を見わたす地図」を参照するよう促す。そこで、鹿児島県の広さに気づき、沖縄県が身近にあることを実感することができる。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.13～14

2. 鹿児島の一歩北から一歩南まで、どれくらいの距離があるでしょうか。

地図中の縮尺（300万分の1）で計算すると、約600kmある。

3. 白地図に鹿児島市から約600kmの円を描いてみよう。何県まで届きますか。

（地図付属の「かんたんものさし」を活用するとよい。）

コンパスで描いた円は遠く近畿地方まで届くことに気づき、鹿児島県が南北に長い県であることを実感することができる。さらに、円の範囲内に、朝鮮半島が入ることから、アジアの国々にもとても近いことがわかる。

このほかにも、地図帳の色から凡例を指導し、土地の高低差などをつかませていきたい。そのなかで、「霧島山は何県にあるのかな。」などと発問し、県境についても意識させたい。

② 鹿児島県の産業 （5年生での地図帳活用例）

鹿児島県は、農業生産額が全国で2位。（地図帳p.63の統計資料は2003年データのため4位となっている。）なかでも畜産業が盛ん。気候に合わせた特色ある農業が展開されている。地図を活用し、おもに鹿児島県の農業について読み解いてみた。

1. 鹿児島県の北部（伊佐市）と南部（与論島など）とで年間平均気温や降水量を比べてみましょう。

地図で場所の確認をした後、統計資料から年間平均気温を比較する。同じ県内でも、大きな隔りがあることがわかる。

そのうえで「それぞれの土地の様子を生かして、どのような農作物を生産しているでしょうか。」と問う。

伊佐市では、冷たくてきれいな水を生かした伊佐米が有名であり、与論島をはじめとする奄美諸島では、温暖な気候を生かしたさとうきびづくりが行われている。(沖永良部島ではゆりが、徳之島でマンゴーなどが生産されている。)

2. 鹿児島県の農業生産額は第何位でしょうか。

統計資料から、全国第2位の農業生産額を誇る事がわかる。地図上の絵記号で、牛や豚・鶏・野菜などの産地を探す。他県でも同じような農業生産物がないか探し、土地の様子など共通点を考えていくことができる。

3 鹿児島県の歴史 (6年生での地図帳活用例)

古来、鹿児島は、アジアや西洋文化の玄関口であった。この地理的な要素が、鹿児島に関する歴史的な事象と深いかわりがあることを、地図を使って読み解いてみた。

1. ペリーはどのようなルートで日本にやってきたのでしょうか。また、それ以前にも外国船はやってきていたのでしょうか。

ペリーはアメリカ東海岸から大西洋を横断し、アフリカ、アジアから那覇にやってきた。その航路を、地球儀や地図帳p.49~50を使い、指でたどって確認させる。

また、1824年に宝島(現鹿児島県十島村)でイギリス人船員との銃撃戦が、1837年に山川(現鹿児島県指宿市)で砲撃戦が起こっている事実を提示し、地図で確認する。

当時の薩摩藩と琉球王国との関係から、薩

摩藩は早くから、西欧列強へ対応せざるを得なかったということに気づくことができる。

2. 鉄砲やキリスト教は、鹿児島県のどこに伝わったのでしょうか。

鉄砲が種子島に伝来したことは、地図帳p.14~15の青地に白抜き文字「鉄砲伝来地」からわかる。また、キリスト教の伝来は、p.22「ザビエル上陸地」を探し当てると、鹿児島に伝わったのがわかる。

ここで、「なぜ、2つとも鹿児島に最初に伝わったのでしょうか。」と問う。この際にも、前述したように、地球儀や地図を使って、西洋人がどのようなルートで来航したのかを指でなぞっていく必要がある。この作業によって、鹿児島が南の玄関口であり、地理的に西洋文化と最初に接触しやすい場所にあることが理解できる。

このほかにも、地図帳で鹿児島に関連のある歴史的な事象を確認することができる。

- 参勤交代で鹿児島から江戸間での距離を縮尺で計算したり、指でたどったりする。
- 地図で「元寇防塁跡」を探す。元寇の際に、薩摩国守護であった島津氏も福岡まで出向き、防塁を築き、異国の警固(警護)を行った事実を示す。
- 「鑑真上陸地」を地図上で探し、遣唐使船の航路を地図で確認する。 など



p.14~15

《参考文献》

- ・寺本潔編著『プロが教えるオモシロ地図授業』明治図書 2007
- ・『図録 薩摩のモノづくり 島津斉彬の集成館事業』尚古集成館 2003
- ・『地図で訪ねる歴史の舞台 日本 改訂新版』帝国書院 2007